本庄駅北口周辺での「ウォーカブル」とは…

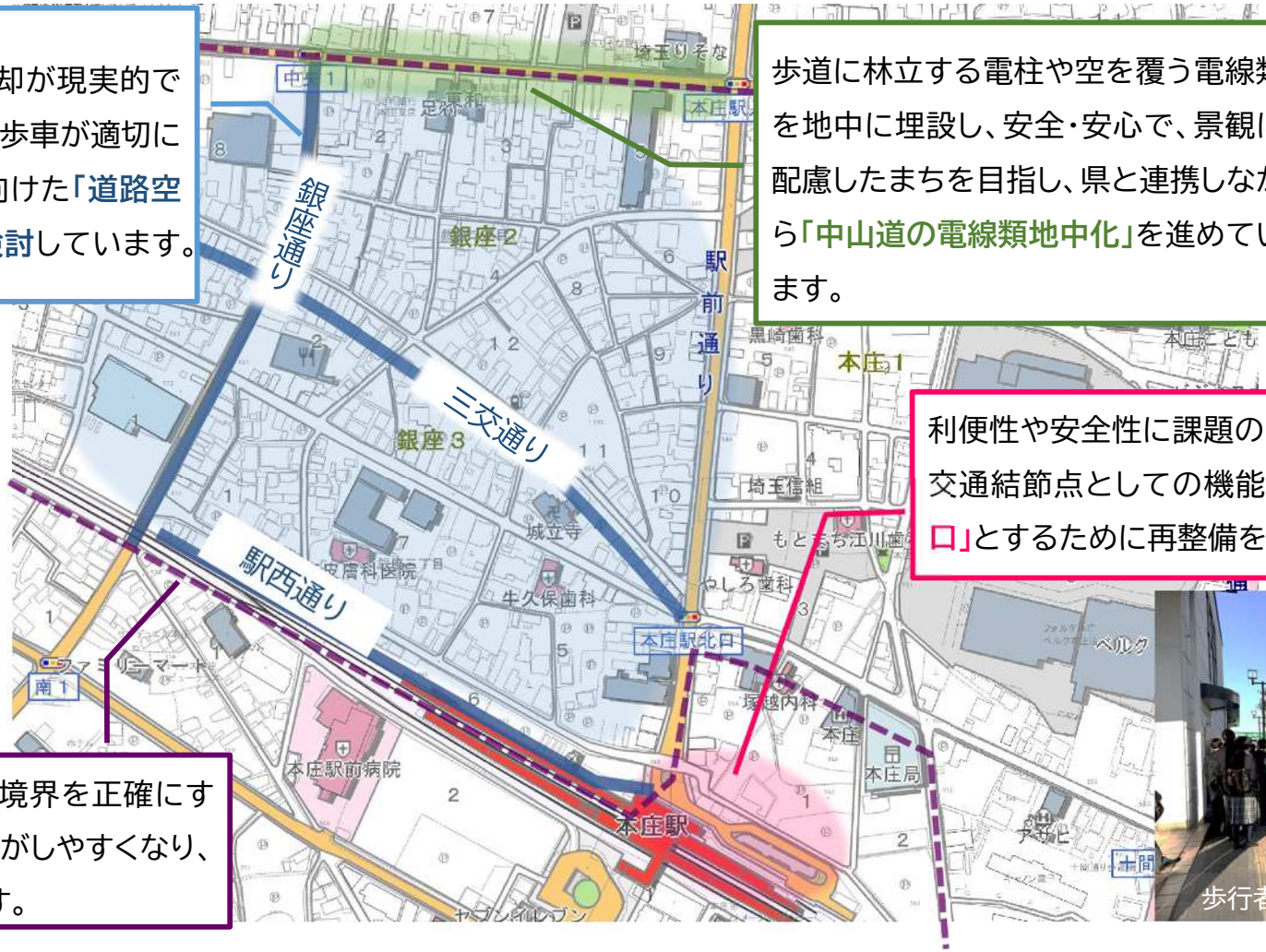
～ まちなかの道路空間を見直すと、まちなかが変わる ～

01 本庄駅北口周辺の取組

北口周辺の様々な課題を解決し、一体的な「まちなか再生」を目指している。

「車社会」からの完全なる脱却が現実的ではない地域の実情を踏まえ、歩車が適切に共存し、地域の課題解決に向けた**「道路空間」の活用方法やあり方を検討**しています。

まちなかを通り抜ける多くの車



歩道に林立する電柱や空を覆う電線類を地中に埋設し、安全・安心で、景観に配慮したまちを目指し、県と連携しながら**「中山道の電線類地中化」**を進めています。

歩道に並ぶ電柱

利便性や安全性に課題のある駅北口ロータリーを、交通結節点としての機能を強化した**「まちの玄関口」**とするために再整備を検討しています。

歩行者と車両が交錯するロータリー

「地籍調査」により土地の境界を正確にすることで、土地活用や取引がしやすくなり、土地の流動化が図られます。

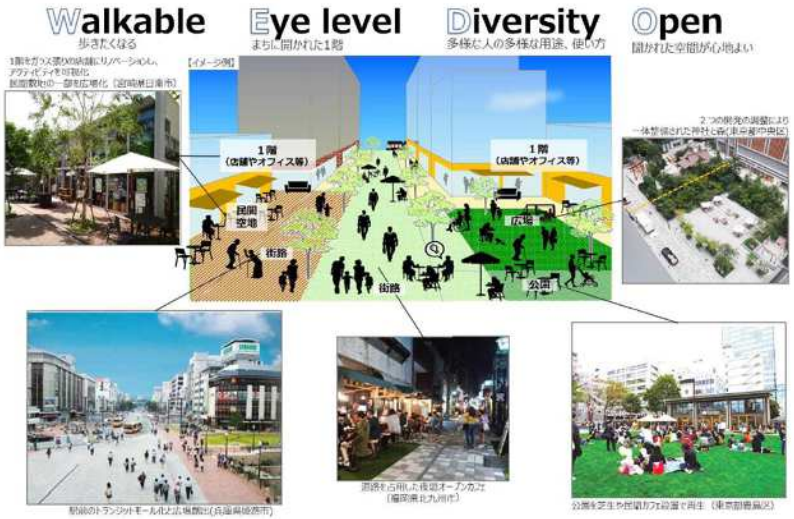
02 本庄駅北口周辺での「ウォーカブル推進」について

本庄駅北口周辺の「居心地の良さ」を支える道路空間のあり方を検証する。

令和元年6月に国土交通省が提唱した「ウォーカブル」を進める動きとして、日本各地、特に大都市や観光都市を中心に「ウォーカブルなまちづくり」が進められ、道路空間に新たな賑わいや交流が生み出されている。

市でも、令和2年6月に「ウォーカブル推進都市」への登録、「立地適正化基本計画」の行動計画と位置付けた「本庄駅北口周辺整備基本計画」を令和4年1月に策定し、道路整備の方針の1つとして、「居心地の良いウォーカブルなまちづくり」を打ち出した。「立地適正化計画」では、本庄駅周辺の**「まちなか再生」**を重点方針としていることから、市では「ウォーカブル推進」をその実現に向けた手法と捉え、**「居心地の良さ」**をキーワードに、**「まちなかの道路空間の見直しによる、北口周辺の課題解決を目指すまちづくり」のあり方**を検証した。

出典元：国土交通省HP「ウォーカブルポータルサイト」▶



丸の内ストリートパーク（東京都）

大手前通り（姫路市）

03 令和４年度の取組

令和４年度　本庄駅北口周辺まちなかウォーカブル推進調査業務

内　容	「本庄駅北口周辺整備基本計画」において、ウォーカブル推進道路と位置付けた銀座通り、三交通り、駅西通り沿道での社会実験を実施し、居心地の良さに着目したまちづくり推進に向けた基礎データの収集、課題の整理、新たな活用方法を検討した。
検証方法	ウォーカブル推進道路やその周辺で開催されたマーケット会場を、「多様な人々が集まる、居心地の良いなまちなか」と見立てた社会実験を実施した。
検証結果	● 銀座通り：古くからの商店街が並んでおり、まちなかと人をつなぐ要素があるものの、車両の通過交通量が多いにも関わらず、**歩道が狭いため、「人のための空間」の安全性に問題**がある。 ● 三交通り：まちなかの中央に位置し、周辺道路の影響を受けにくい立地にあることから、「まちなかの路地」として活用できる。 ● 駅西通り：駅に直結しており、駅利用者のまちなかへの回遊を流す場として活用する。 ● 来場者アンケート：まちなかに魅力を感じながらも、道路空間の安全性に問題がある。

▲社会実験会場の様子

03-2 取組の結果

■アンケート集計結果

順位	指標	評価の視点	指数※
1	人を感じる	初めて会った人との会話や交流を楽しめた。	4.25
2	知らない道を歩く	今まで知らなかった路地を歩いて、ワクワクした。	4.21
3	商店街を感じる	地元商店の店主との会話が楽しかった。	4.20
4	**歩きたくなるまちだと感じる**	居心地が良く歩きたくなるまちだと感じた。	**4.05**
5	匂いを感じる	食べ物の匂いにワクワクした。	3.92
6	子どもを感じる	まちなかで子どもの声が聞こえた。	3.87
7	偶然を感じる	偶然に知り合いと出会えて、嬉しかった。	3.84
8	**車との安全な距離を感じる**	車を気にせず歩くことができた。	**3.79**
9	自然を感じる	まちなかで緑や自然を感じた。	3.36

※指数の出し方：指標に対する評価を５段階評価（５が最高値）で回答してもらい、その平均値を各指標の最終的な指数とした。

【総評】

- 社会実験を機に北口周辺のまちなかを訪れた方が多かったのか、地域での新たな交流や体験に対する評価が高かった。

【課題】

- 人々の居心地の良さに着目したまちづくりを進める上での最上位指標となる**「歩きたくなるまち」**への評価は低くはないものの、指数上昇に向けた対策の必要がある。
- まちなかでの暮らしや活動を支える**「安全性」**の評価が低く、「基本計画」内に掲げている**「安全性の向上」**という課題が実証された。

04 令和５年度の取組

令和５年度　本庄駅北口周辺まちなかウォーカブルエリア等検討業務

内　容	前年度の検証結果を踏まえ、人々の居心地の良さに着目したまちづくりの中心となるエリアの設定に向け、道路空間の安全性向上に配慮した新たな活用方法等を検討した。
検証方法	北口周辺のウォーカブル推進道路の中心的役割が期待される「銀座通り」での、新たな道路空間の活用を検討するため、道路空間で開催するマーケット会場を「安全で居心地の良いまちなか」と見立て、「人のための空間」と「車のための空間」の共存のあり方を検証した。
検証結果	● 「人のための空間」が広がるまちなかは、人々の多様な交流や行動を生み出す。 ● 「車社会」から完全なる脱却が現実的ではない実情を踏まえ、「人のための空間」と「車のための空間」が共存する、新たな「歩車共存」に向けたまちなかが必要となる。 ● 来場者アンケート：「道路空間の安全性」と「まちなかの居心地の良さ」の間に連動性がうかがえた。

▲社会実験会場の様子

04-2　これまでの取組の結果のとりまとめ

２年にわたる調査結果をとりまとめると、令和５年度の結果では、調査項目のうち、**「歩きたくなるまち」**と**「安全性」**の指数のみが上昇する結果となった。

R5 順位	指標	指数			順位	
		R5	R4	増減	R4	変動
1	人を感じる	4.20	4.25	-0.05	1	±0
2	**歩きたくなるまちだと感じる**	4.11	4.05	+0.06	4	+2
3	**車との安全な距離を感じる**	4.04	3.79	+0.25	8	+5
4	匂いを感じる	3.85	3.92	-0.07	5	-1
5	子どもを感じる	3.78	3.87	-0.09	6	+1
6	知らない道を歩く	3.77	4.21	-0.44	2	-4
7	商店街を感じる	3.70	4.20	-0.5	3	-4
8	偶然を感じる	3.64	3.84	-0.2	7	-1
9	自然を感じる	3.11	3.36	-0.25	9	±0

令和５年度に変更した点は…

社会実験会場の様子

令和４年度

令和５年度

05 2年にわたる社会実験で見えてきたこと

「居心地の良さ」をキーワードに、「まちなかの道路空間の見直しにより、地域の課題解決を目指すまちづくり」のあり方の検証

車道と狭い歩道が隣り合う会場

▶テーマ：道路空間の現状の把握と課題の整理

「基本計画」で“ウォーカブル推進道路”と位置付けた３路線（銀座通り・三交通り・駅西通り）について、**現状の道路空間**で社会実験を実施し、各路線の問題や課題等を検証した。

ウォーカブル推進道路の中心的な道路としての活用が見込まれる「銀座通り」は、「人のための空間」に課題があるとともに、まちなかの「居心地の良さ」に対して改善の余地がある。

歩行者の安全性が確保された会場

▶テーマ：道路空間の「安全性の向上」が人々の「居心地の良さ」にもたらす影響

車両の通行を規制し、安全性を向上させた社会実験会場を「人のための空間が広がるまちなか」と見立て、人々が感じる「居心地の良さ」にどのような変化をもたらすのかを検証した。

アンケート結果では、「安全性の向上」の指数に加え、「居心地が良く歩きたくなるまち」の指数上昇が確認できた。この理由としては、「安全性の向上」は「車両の通行規制」という直接的変化の影響と考えられるが、併せて「居心地の良さ」の指数が上昇していることで、両者の**連動性**がうかがえる。

06 令和６年度の取組

令和６年度　本庄駅北口周辺まちなか道路空間等利活用検討業務委託

▶テーマ：歩車共存と地域課題の解決を目指す、新たな道路空間のあり方

内　容

過年度業務の成果を踏まえ、銀座通りを主軸とした、既存の道路空間の現状や課題を洗い出し、「まちなか再生」に向けた整備方針案等を検討した。

▶主な業務内容：地区概況と課題整理、基本方針の検討、事業スキームの検討、地元への意向調査、歩車共存の推進に向けた整備構想案の検討　等

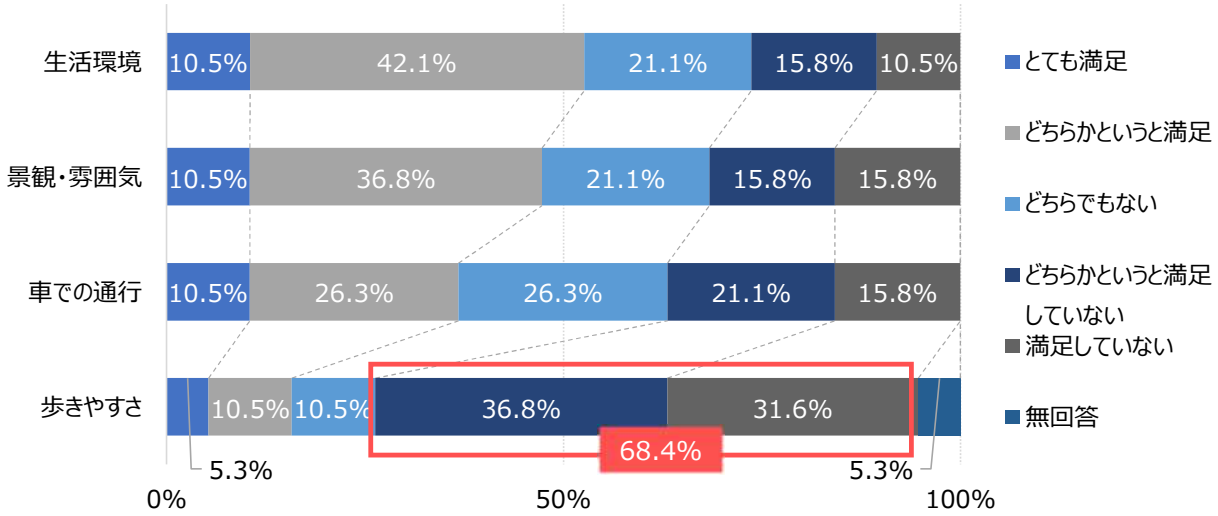
業務内容	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
地区概況と課題整理									
基本方針の検討									
事業スキームの検討									
地元への意向調査									
整備構想案の検討									

地元の商店街の皆さんによる「銀座通りへの評価」から、課題を整理するためにアンケート調査を実施した。

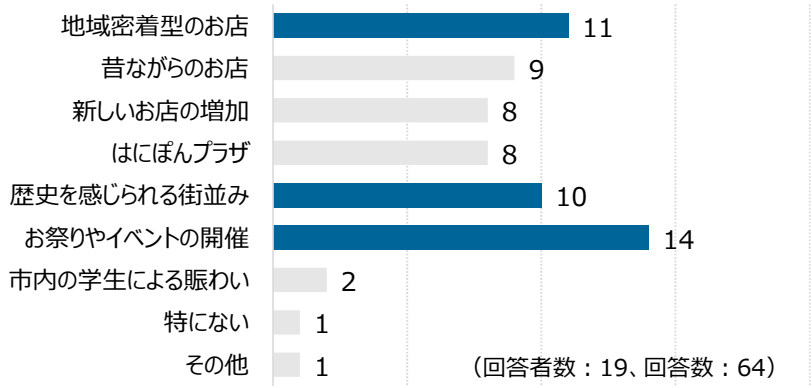
06-2 アンケート結果①

※配布数：33枚 ／ 回収数：19枚 ／ 回収率：58%

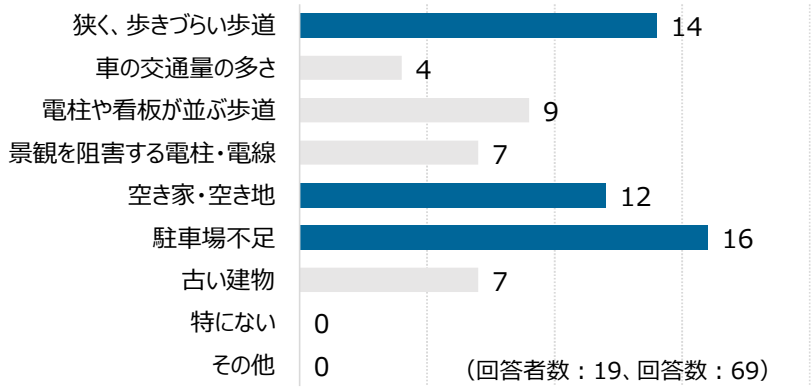
【ｸﾞﾗﾌ1】銀座通りに対する満足度 （回答者数：19）



【ｸﾞﾗﾌ2】銀座通りの魅力



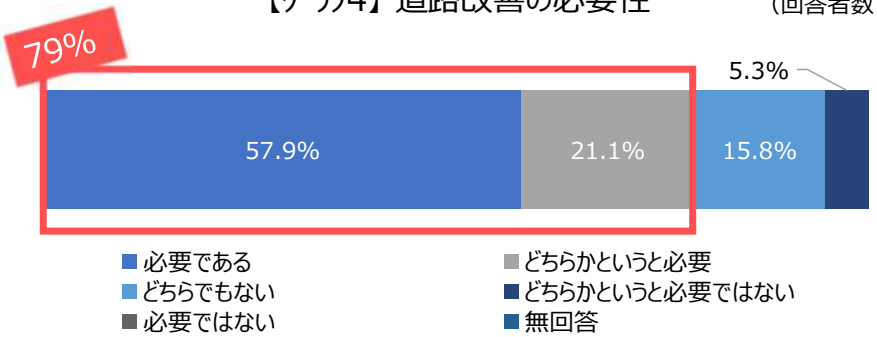
【ｸﾞﾗﾌ3】銀座通りの改善点



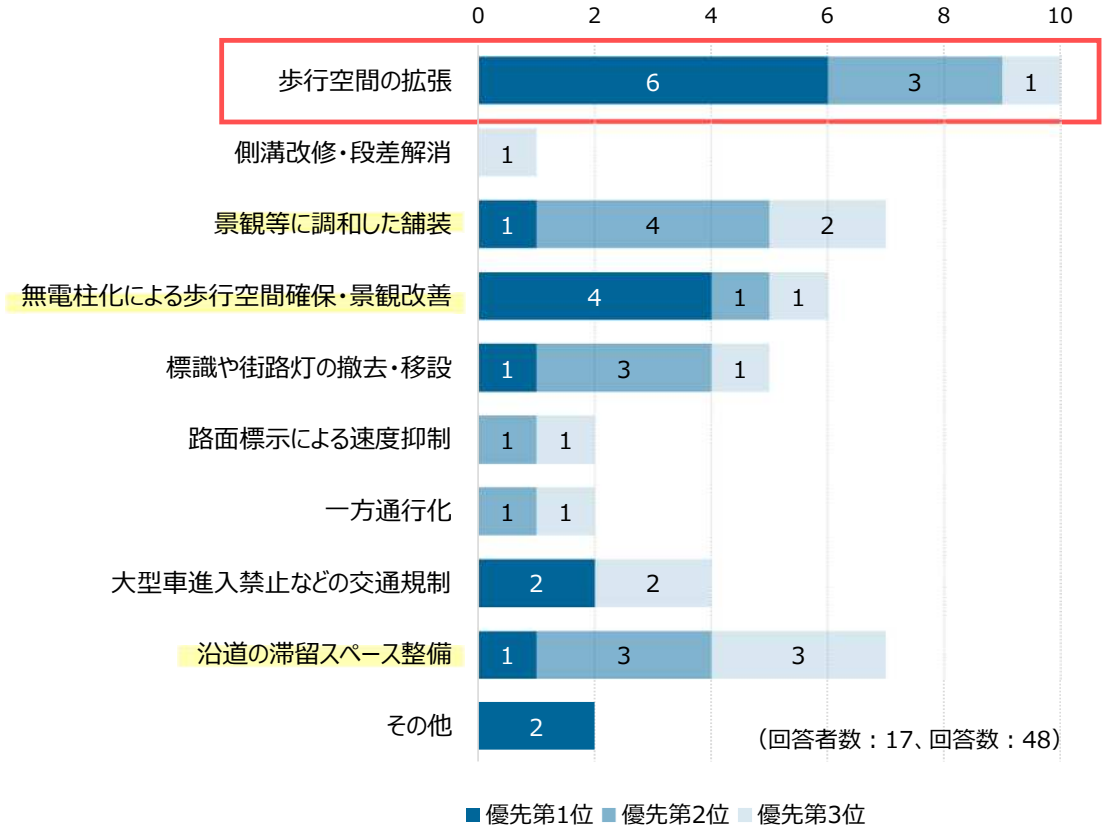
- 生活環境や景観など「まちの空間」への満足度は高いものの、安全性、特に**「歩きやすさ」に対する満足度は低く、回答者の約7割が不満を感じている**。【ｸﾞﾗﾌ1】
- 魅力と感じる点として「地域密着型の店」「歴史」「お祭り」といった、**地域に脈々と受け継がれてきた特徴**を挙げる回答が多かった。【ｸﾞﾗﾌ2】
- 改善点としては「狭く、歩きづらい歩道」「空き家・空き地」「駐車場不足」など、**まちなかが抱える問題**の一部が同地区でも明らかになった。【ｸﾞﾗﾌ3】

06-3 アンケート結果②

【ｸﾞﾗﾌ4】道路改善の必要性　（回答者数：19）



【ｸﾞﾗﾌ5】取り組むべき道路改善



- 回答者の約8割が、銀座通りの道路改善の必要性を感じている。【ｸﾞﾗﾌ4】
- 具体的な道路改善の内容を優先順位と併せて聞くと、**「歩行空間の拡張」**が回答総数のみならず、優先順位を第1位とする回答数とともに最多となった。【ｸﾞﾗﾌ5】
- 全体を見ても、「景観等に調和した舗装」や「滞留スペース整備」や「無電柱化による歩行空間確保・景観改善」などの回答数が多く、**「まちなかの人のための空間の改善」を求める声**が多かった。【ｸﾞﾗﾌ5】

07 まとめ

これまでの結果を踏まえ、北口周辺でのウォーカブルなまちづくりを進める上でのポイントを整理する。

令和４・５年度 社会実験

- ウォーカブル推進道路と位置付けた路線のうち、北口周辺の「まちなか再生」を進める上での中心的役割を担うのは「銀座通り」が妥当である。
- 銀座通りは車両の通過交通量が多い一方、歩行空間は狭いため、安全性に問題がある。「車社会」からの完全なる脱却が現実的ではないとする、市の実情を踏まえつつ、人に焦点を当てた「歩車共存」のあり方が、今後の北口周辺の「まちなか再生」のカギを握る。
- 令和４年度に実施した来場者向けアンケートでは、道路空間の安全性への評価が低く、また、「ウォーカブル推進」のキーワードである「居心地の良さ」に改善の余地が認められた。
- 令和５年度には、車両の通行を規制し、「安全性」を向上させたまちなかを想定した社会実験を実施したところ、「安全性」に加え、「居心地の良さ」への評価が高まり、両者に連動性があることがうかがえた。

★北口周辺では、まちなかの「居心地の良さ」と、「まちなかで時間を過ごす人の安全性」が連動している。

令和６年度 地元商店街アンケート

- 銀座通り沿道に店舗を構える方を対象としたアンケートでは、地域の生活環境や景観・雰囲気に対する満足度、つまり、まちの空間に対する「居心地の良さ」は高いことが分かった。
- 地域の魅力として、「地域密着型のお店」「歴史」「お祭り」といった、地域に受け継がれ、深いつながりのある特徴をあげる回答が多く、地域への愛着度の高さがうかがえた。
- その一方、まちの「安全性」に対する評価は低く、特に「歩きやすさ」に対して不満を持つ人は、回答者の７割近くにのぼった。
- 回答者の８割近くが、銀座通りの道路空間に改善の必要性を感じている。
- 現状の道路空間において、取り組むべき対策としては「歩行空間の拡張」への回答数が多く、さらには最も優先すべき対策と認識されていることが明らかになった。

★地域に暮らす人々の多くは「まちなかの空間」には満足してるものの、「安全性」への満足度は低く、特に歩行空間の安全性向上を求める声が多い。

北口周辺でのウォーカブルなまちづくりを進める際のポイント

- ■ 地域の課題である「安全性向上」は、まちなかでの「居心地の良さ」を支える重要な視点であり、道路空間の見直しによる「まちなか再生」の力強い推進力となることから、優先的にこの課題を解決する必要がある。
- ■「車社会」からの完全なる脱却は現実的ではない市の実情を踏まえながらも、人々の暮らしの中で自然と「歩く」を選択できるような、つまり「歩きたくなる」まち、「人の安全性」に配慮した「歩車共存」の空間づくりが求められる。
- ■ 「人の安全性」を優先した道路空間の見直しは、地域に暮らす人と地域を訪れる人、それぞれの「まちなかの居心地の良さ・満足度」の向上が期待でき、まちなかの持続可能性（この先も、これまでと変わらない暮らしが守られる「まちなかのチカラ」）の向上、「まちなか再生」に向けたまちづくりにつながる。